

労働環境の地域格差—賃金と仕事の見つけやすさの動向—

地域間の「賃金格差」はどうなったか

世の中の様々な差異を社会問題としての視点から捉える場合、「格差」という言葉が使われる。地域間の差異はその代表例であり、「地域格差」という言葉で語られる。本稿では雇用環境の地域格差の状況を見ることとしたい。

まず、「賃金構造基本統計調査」(注1)により、2000年から06年にかけての都道府県別(以下、都・道・府・県を区別せず県と記述する)の民間賃金(年間給与)動向(注2)を見よう。全国平均の民間給与は00年の497万円から、景気低迷と企業のリストラなどを背景に、04年にかけ485万円まで減少したが、06年には489万円に小幅戻している。

一方、県の間での給与のばらつきを示す標準偏差は、00年の54.2万円から06年に57.2万円に約3万円拡大した。この数字の解釈には難しいところがあるが、格差拡大というほどの印象は薄い。しかし、最高と最低の差は251.6万円から286.8万円へ35万円増大した(第1図)。また、年間給与550万円以上は東京、神奈川

のみであるのは変わらないが、450万円以下の県は23から28へ、400万円以下についても9から14へ増加した。また、04年から06年にかけて全国平均給与は増加に転じたが、4割以上の21県ではなお減少が続いている。

賃金の地域差を県という単位から見れば、大都市を中心とする上位県と地方を中心とする下位県との差が広がっていることは確かであるものの、問題は賃金水準の下位層にある県数が増加し、かつ多くの下位県の賃金が下げ止まっていなかったことにあると思われる。

景気拡張期間が5年半を経たにもかかわらず、地方への波及は遅く、下位県を中心に賃金調整がなお継続していることが分かる。

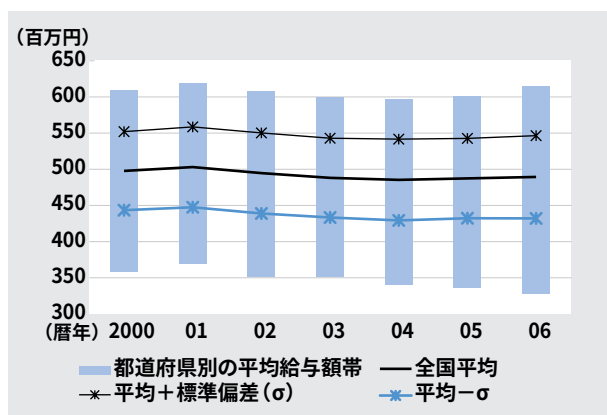
仕事の見つけにくさの格差が拡大

前述のような給与の高低の問題に加え、雇用環境を考える時により切実なのは、今住んでいる所で仕事が見つかりやすいか、ではあるまいか。

公共職業安定所(ハローワーク)で扱う「求人数」を「求職者数」で割った「有効求人倍率」は、仕事の見つけやすさを示す代表的指標である。有効求人倍率の1倍割れは求人数が求職者よりも少なく仕事が見つかりにくいことを意味する。

92年10月から1倍を切っていた全国平均の有効求人倍率は、05年12月から1倍を超え過去1年は1.03~1.09倍で推移している。年齢や職種、スキル・資格等の求人内容と求職者のミスマッチを脇におけば、全国平均での職探しの状況は改善してきたということを示す数

第1図 都道府県別の賃金差の変化



資料 厚労省「賃金構造基本調査」から農中総研作成

字であり、戦後最長の景気拡張の結果と言えるかもしれない。

しかし、有効求人倍率の県との差は拡大し、改善が遅れている県も多いのが実情だ。

景気拡張が始まった02年の全国平均の有効求人倍率は0.54倍と極めて厳しい状態であった。最高は0.83倍（山梨）、最低は0.29倍（青森）で、標準偏差は0.14であった。

一方、足もと（07年1～4月）の全国平均は1.05倍に上昇している。しかし、最高は1.98倍（愛知）、最低は0.41倍（沖縄）で標準偏差は0.32に拡大。有効求人倍率が1.30倍を超えている県が11ある一方で、全国平均－標準偏差（ σ ）である0.73倍を下回る県が北海道、東北、四国、九州に9あり、相変わらず職探しの厳しい状況が想像される（第2図）。

今でも出稼ぎで家族と離れ一年の多くを過ごす人も多く、どうしても職に就くため故郷を後にせざるを得ない人も少なからずいる。しかし、「仕事のある所に行けば」という問題

ではない。戦後経済発展の経路と同じような大都市への集中化政策を再び取ることは無理がある。とはいえ、住み慣れた所で暮らせるような地域雇用の改善する即効薬は少ない。持続性のある地域活性化策を積み上げることが肝要だ。そのためには外部人材も活用し、地域の経済資源の新たな発掘やそのPRを行うことも大切である。そうしたなかで企業誘致や起業の実効性もあがると期待される。

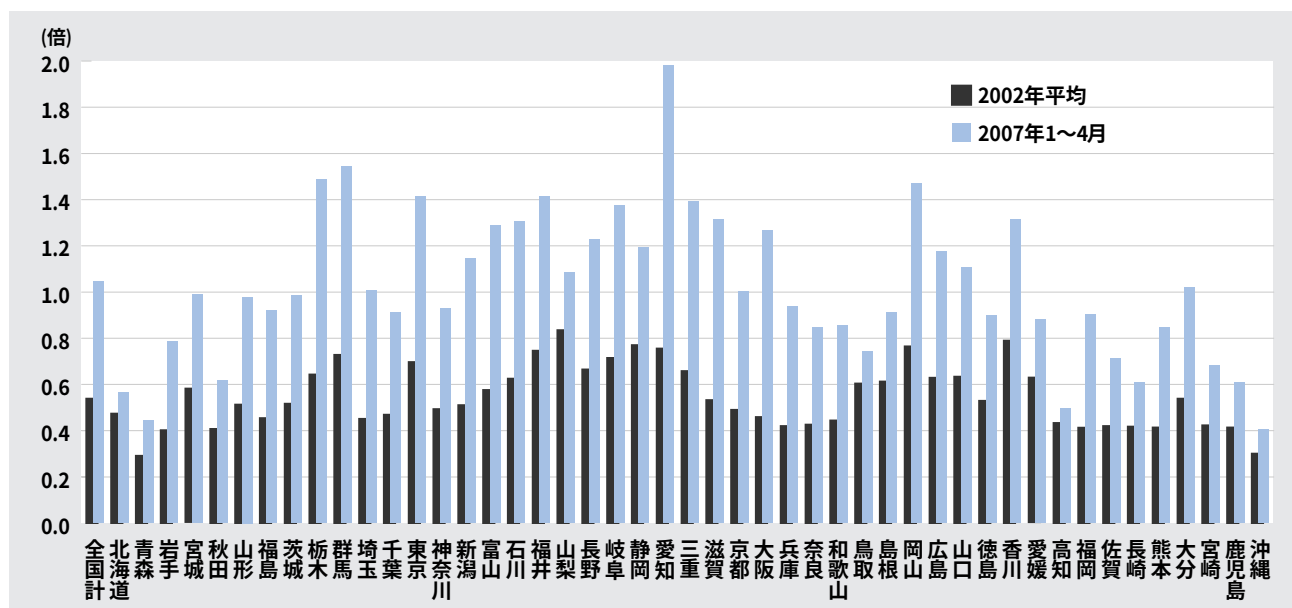
また、雇用政策についても地公体が地域の雇用ミスマッチの実態を確認した上で、あらゆる年齢層にわたるきめ細やかな職業訓練体制を作ることが必要ではなかろうか。一方、国には改正雇用対策法（9月施行）での求人の年齢制限禁止の徹底などにより求人・求職のミスマッチ是正を進めることが求められる。

（調査第二部副部長 渡部喜智）

（注1）「一般公務員」は入っていない。

（注2）本稿での賃金は、きまって支給する給与＋賞与等の特別支給給与の年間給与合計。

第2図 都道府県別有効求人倍率の比率



資料 厚労省「職業安定業務統計」から農中総研作成